

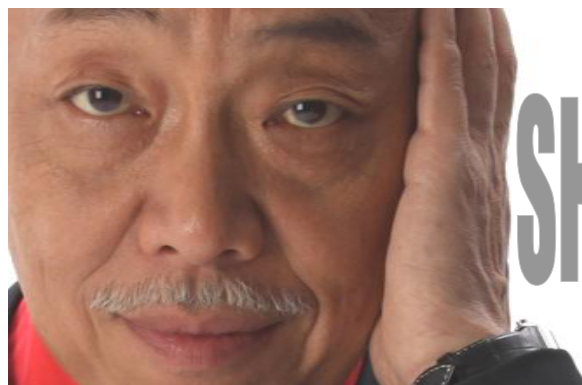
ALICE RETURNS

アリスの飛行船 再始動記念会報



渾身の一曲ライブ、「明日への讃歌」

東京文化会館での1時間を超える会見をここに再現
再始動記者会見の全貌



SHINJI TANIMURA

28年ぶりで全国40公演「命を削るツアーになる」



TORU YAZAWA

ライブで演奏される曲は？新曲は発表されるのか？



TAKAO HORIUCHI

3人が語る再始動への意気込み



2009年、夏

3頭のペガサスがふたたび飛翔する。

38年あまりの歳月を経て

より高い極みへとはばたいていく

そんなペガサスを応援すべく

真っ赤な飛行船もより高く飛び立ちます

大勢の船員さんの夢を乗せて

アリスの飛行船



2009年3月4日、アリス再始動記者会見

アリスの再生ボタンが押された、その瞬間を完全収録!!

渾身の1曲ライブ、明日への讃歌



4ページ目から再生



ツアーへの意気込みを語るトークショー



5ページ目から再生



記者に囲まれて和やかなインタビュー



13ページ目から再生



2009年3月4日、東京文化会館 アリス再始動記者会見の全貌が明らかに

渾身の1曲ライブ 「明日への讃歌」

2009年3月4日、東京上野の東京文化会館の大ホール。。。

ここでアリスの記者会見が行われる。

ステージの上に置かれた2本のギターと3本のマイクが活動再開する彼らへの期待をふくらませる。

記者たちのざわめきをかき消すように、ホールにアナウンスが響いた。

ただいまより、「ALICE LIVE ALIVE 2009」プレス発表会をはじめさせていただきます。

3人が姿が。。そして、それぞれの楽器を手にした。

ふくらんだ期待が破裂しそうなになったその時、チンペイさんが語りかけてきた。

ちんぺい

え〜、みなさん。今日はお忙しい中、かくもたくさんきていただいて、ほんとにありがとうございます。

アリスがひさしぶりに3人揃いまして、全国ツアーをスタートする。

なんとなく今、「閉塞感」が巷に満ち溢れておりまして、アリスを出すことで同世代の人は、きっとなんかいい雰囲気になってくれるんじゃないかと。。そんな思いもこめまして。

あとアリスをはじめて生で見る人たちにとって、なんかいいなと思ってくれたら、我々が動き出す。。なんかそんな意味もあるのかなあって。

それよりも3人がとりあえず楽しんで、やれば一番いいと思っております。

え〜、一番アリスらしい、3人だけでやっていた頃の、思い出の歌を1曲。

ベーやん

僕らの中では。。これ初期の頃の曲です

よねえ。そうとう。。

ちんぺい

2枚目のシングルですから、72年の歌で。。

ご存じない方がほとんどだと思います。こんなことをアリスはやっていたと。。渾身の一曲、オープニングかつエンディング。。一曲、聴いていただきたいと思っています。

あの〜、もしノッてきたら。。みなさん、手拍子うつなり足拍子うつなり、盛り上がってってください。

（記者席から「いいのお？」。。）

けっこうです。全然フランクに楽しんでってください。

それじゃ、「明日への讃歌」という歌をおおくりします。





アリスの語りを楽しむ トークショーへと流れて

「明日への讃歌」の演奏が終わり、楽器が片付けられた後のステージに椅子が4つ並べられた。

テーブルの上にマイクが置かれて、金屏風か何かをバックにという会見のイメージとは違うようだ。

何が始まるのかと思っていると、アリスの3人ともう1人。。。マイクを片手に4人は椅子に座った。

ベーやん

今日は。。。昨日からちょっと寒くなってきましたね。
たくさんの方にきていただくのを希望していましたが、こんなにたくさん予想外の。。。なんか、ねえ。うれしいですね。ありがとうございます。

ちんぺい

今日、この後。。。楽しいトークを仕切ってくれる。。。市川です。

市川さん

はい、音楽評論家の市川哲史と申します。
今日はアリスの記念すべき活動再開ライブを。。。たった一曲の渾身ライブを。。。お越しいただきまして、ありがとうございます。
ということで、これからしばらくみなさんと今回のことも含めて、いろいろお話できたらなあと思っております。
よろしくお願いします。

ベーやん

まあ、これはなんかいろんな雑談と言いますか。。。座談会みたいなものだと思います。
市川さんの方から、いろんなこと聞いてくださいよ。

市川さん

えええ(笑)、仕事ですから。。。お願いします。



東京文化会館での記者 会見。。。なぜここ??

まずはこのクラシックの殿堂とも言える文化会館。。。しかも、たった3人のライブ。。。みなさん、今日これタダですか(笑)。
なかなかこういう所でライブを、いきなりってのは。。。。

ベーやん

今、冷静に数えてたんですけど。。。5階まであるんですね。

ちんぺい

そうですね。2000人はいるクラシックのホールは。。。。

ベーやん

僕は。。。そうそうねえ、(こういう所でライブを)やるっていうのは。。。機会はないですよ。

市川さん

ですよ。

あの～今日、何故こうなったのかと。。。。

ちんぺい

これはですね。。。。

実は今月11、12、13日と、この東京文化会館で谷村はクラシックのみなさんと「TANIMURA CLASSIC」というのをやらせてもらうんですけど、その打ち合わせにうちのスタッフがこちらにお邪魔していたときに、アリスが記者会見するのにいい場所はないだろうかと話をしてまして。。。。

リハーサル室を最初貸していただくという話だったんですけど、「大ホールが空いているから使えば」って言ってくださったんです。

ベーやん

これえ。。。ちょっと大ホール。。。使えばってねえ。

すごいこの中でやっていると間尺が。。。。

市川さん

よりによって大ホールが空いてる。。。。

ベーやん

そうなんですよ。

ちんぺい

でもね、この文化会館っていうのは、クラシックの殿堂なんですけど、要するにいいものであればどんどん使ってくださいっていうメッセージをくださって。我々アリスがこうやってやるんであればどうぞって言ってくださって。。。だから今日、これが実現したっていうことなんで。。。だから感謝ですよ。

3人それぞれに迎える 60歳という節目を語る

ベーヤン

ちんぺいさんはね、20、30ぐらいから考えていたと思うんですけど、60っていう数字が、大きなくくりみたいな節目を、無事に迎えられたっていうのが、すごい嬉しくて。

ちんぺい

ベーヤンはいくつだったけ？

ベーヤン

僕はまだ59です。

市川さん

きんちゃん。。

ちんぺい

矢沢はもう60になってます。

ベーヤン

きんちゃんは2月生まれだから。。

ちんぺいさんは去年12月に迎えてますね。

僕が一番若者で。。(笑)

10月になったら60。。

でも、60を迎えられた。やっぱりそれがすごく嬉しいですね。

若い方が多いですけど、自分になるのを想像できないでしょ？

僕らも想像つかなかったもん。知らなかったよお〜。(笑)

ちんぺい

60にならないと思っていたよね、

20代の頃は。

このまんま20代のままでいけると思っていたのに、いろんな所にいろんな支障がでてくるもんで。

でも、こうやって3人集まると、あの頃の30のままでやれるっていうのが嬉しい。

きんちゃん。。ちょっと。。声を一回出

してみたほうがいい。

ベーヤン

しゃべってないんだよなあ。

市川さん

どうですか、60。。矢沢さんにとっては。

きんちゃん

まあ、折り返し地点なのか、通過点なのか微妙なところですが。

あまり、何も感じません。

市川さん

60が折り返し地点だと、120まで生きることになりますか。。(笑)

ちんぺい

僕ら120のつもりですから。はい。

「再結成」ではない「再始動」 そう、ALICE RETURNS

市川さん

まあ、60だからという言い方も変ですけど、ここでアリスをやるそと。

ここで最初に断っておかなきゃいけないのは、けして再結成ではない。

再結成という言葉は使わないでいただきたいというところがね。

ベーヤン

僕ら、やめたときは一時停止っていう言い方をしたね。

ちんぺい

そう、一時停止。

ベーヤン

あの時はわからない方がたくさんいらっしゃるかもしれないね。

「はっきり解散って言ったほうがいいですよ」とかって言われてね。

「解散じゃないよお」って

ちんぺい

言い張ってましたから。



でも、あの当時理解していただけない方も、こうやって60歳になって普通にやりはじめられれば、「あっ、そういうことなんだ」ってわかってもらえるというのがあるかも。

市川さん

ここ十年ぐらい、解散って言わずにいろんな言葉を使うようになったんですが、最初に活動中止とかっていうのを使ったのは、実はアリスだったんです。

この前、判明したんですよ。

なんの先駆者なんだっていうのもありますが。(笑)

ちんぺい

言いだしっぺですねえ。

28年ぶりで全国35公演 「命を削るツアーになる」

市川さん

でも、今回改めてはじめられるのに、いきなり全国ツアー。お手元の資料にあると思うんですが。。

こういってはなんですが、本当に久々に動くバンドがいきなり全国ホールツアー。。「大丈夫ですか？」みたいな声もたぶんあると思うんですが。



ベーやん

今、一番言われていることで、記者の方も向こうから、「そんなにやるのか？」って声が出てますよね。

市川さん

月に。。。月にというか、二日に一本はいますからねえ。

ちんぺい

そうですねえ。

たぶん。。。ある意味、命を削るようなツアーになってくるかもしれないんですけどね。(笑)



ロックバンドを凌駕する ライブバンド、『アリス』

市川さん

みなさん、アリスに対してイメージ、いろいろあると思うんですが。

たとえば歌がいい。たとえば歌詞がいい。サウンドがいい。なんかぐっとしみた思い出があるとかってあるでしょうけど。。

ベーやん

ほめすぎだよ。

市川さん

いや。。。一応仕事なんで(笑)。

ちんぺい

仕事かよ。。。 (笑)

ベーやん

そこそこでいいんだよ。

市川さん

ただそんな中でいいと思うのは、ほんとにアリスってライブバンドなんだっていうのが、ものすごくありまして。

特にこう。。。なんか繊細なものも、それから熱いものも、すべて実は力で押し切るような。。

そういう逞しいロックバンドっぽいところがあるかっていう記憶があるんですけど。

ベーやん

あ〜そうねえ。勢いだけはなんかロックっぽいねえ。

ちんぺい

あの〜、なんか音量だけはロックに負けないようにっていうんで、矢沢がさっき叩いてたタンバという楽器をロックコンサートでもかましたりしましたから。闘争心はありましたね。

ベーやん

けっこう大きい音好きなんですよ。

普段小さくなってますから。(笑)

市川さん

どうしてこう単純にもっていくんですか。。。 (笑)

実際ね。さきほども使ってたけど、タンバ。

特にこういう鳴りのいいクラシックホールでは、まさにロックバンド殺し。。。「ドラムって何？」みたいな、すさまじい

ものですねえ。

ちんぺい

矢沢は本職はドラムなんで、ツアーでも想いっきりドラムを叩いてもらって、タンバも鳴らすっていう。。。もう、命を削るみたいな。

ベーやん

ほんとそうですね。そう言った意味では無事60を迎えられたんですけど、これからあるコンサートというか、ツアー。。。ある種、自分たちの心のリハビリみたいなね。

もう一度こう、自分の中に復活させる、まだできるんだというのを、また再確認するかな。。。感動しますよね。

**朝起きて自分がどこにいるかを
確認しながら年間304ステージ**

市川さん

とりあえず今だったら、ドームとかいっぱいありますから、全国ドームツアーとか。。。本数は4〜5本で大会場でやればいいよって発想になりがちなんです、あえてそれはせず。

ちんぺい

アリスで最初の頃って、メジャーヒット



がでる前は、ひたすら全国をツアーして年間300ステージとかやってた頃。アリスらしい、出向いて行くことだと思うんですね。

だんだん年取って面倒くさくなってくるけど、そこに行き、待っていてくれる人のところへ届けたいのが、アリスらしいことなんだろうと。

市川さん

昔を見るとですね、一番多い年では300本強。

300本強って言うと簡単なんですけど、計算すると月平均25本なんです。すると、1月に5日しかステージの上で歌ってない日がない。

頭おかしいんじゃないかっていうぐらい(笑)、すごくがんばって歌われてた。

ちんぺい

だから、ホテルに泊まって朝起きたときに一番最初に考えるのは「今どこにいるんだろう？」っていう。

ベーやん

あ〜、それはありましたねえ。起きて。。。夜中動いているんで、わかんなくなるんですね。土地が変わっているわけですから。

市川さん

当時は飛行機移動とかなく、ひたすら電車とか。。。乗り継ぎとかでしたよね。

ちんぺい

夜行列車で移動してましてね。今はもうなくなっただけですけどね、寝台車。

ベーやん

寝台車は乗りましたねえ、たくさん。

市川さん

荷物はもちろん自分たちで持ちで。。。

ベーやん

手持ちなんですけど、もう。。。歌う赤帽さんみたいな感じですよ。

赤帽さんはギターを持つでしょ。

きんちゃんは途中から電子ピアノっていうのかな、そんなのが増えたんですよ。そしたらそれにまたプラスアルファでコンガとかね。

ちんぺいさんは2つ、スーツケースでしょ。そりゃ、すごい移動でしたよ。

ちんぺい

それで当時あの、やめればいいのにロンドンブーツが流行ってまして。

かかと25センチ、つま先10センチぐらいのやつを。

ベーやん

ファッションにふりまわされてたんでしょね。

ちんぺい

それを履いてて、発車のベルが鳴ってる駅の階段を、そのロンドンブーツで荷物持って駆け上がるのが何度もありましたから。

矢沢は何回も捻挫したことがある。

じゃあ、脱ぎゃいいんじゃないかってことなんですけど、一回脱ぐと身長がずんと下がる。

脱げなかったという。

待っている人たちの街へ 出向いていくのがアリス

市川さん

でも、やっぱり待っている人というか、聴きたいと思っている人のところに、とにかく出て行くというのがアリスの基本方針だったということは、今回28年ぶりっていうのもやっぱり同じ、出向くのが本来の姿だということですかね。

ちんぺい

出向きたい。。。出向きたいんだよね、きつと。



ベーやん

そうですね。自然に身体に。。。みんなそれぞれ覚えてますから。染み込んでるんじゃないですかねえ。

だけど、さっきから懐かしい話が出て、その時代性の中で僕は忙しく動いてたんです。。。逆に今、振り返れば、そうやって動けたという、社会というか、世間というか、そういう場をくれたんで、僕はそういう意味ではラッキーだったなと思うんですよ。

まあ、確かにヒット曲が前半戦。。。半分以上は恵まれなかった。まあ、ヒット曲がすべてじゃないですけどね。

その後、10年っていうのはほんとにアリスが僕を変えた。今も歌ってますけど、やっぱり母船というか、一番大事な時期を作ったというか、だからそれもひとつ残せて、またこうして「どうです?」って、元気に節々痛くても出てこれたのは、うれしいですね。





3人で演奏していて、サウンドが出てきた瞬間に嬉しくなっちゃう

市川さん

例えば先程歌われてて、やっぱりまぐれのごとく出てくるもんですか？

ベーやん

いやあ、やっぱりどこかにいるんですねえ、あいつは。

市川さん

あいつですか。。。 (笑)

ベーやん

いますねえ。

だから、ほんとにおとなしくしていようと思うんだけど、ステージっていうのは僕らの戦場じゃないんですけど、これは魔物ですね。だからリハーサルでは出なくても本番になって、みなさんが真剣に見てらっしゃるから、そりゃ当たり前のことなんですけど、自然に高い音域もでちゃうんですね。おもしろいもんですねえ。

市川さん

矢沢さんはどうですか。今日、ぱちぱち叩かれてましたけど。

きんちゃん

やっぱり一番離れていたのが僕なんで、けっこう大変なんですけど。

でも、60になって力の抜き方がわかってきて、若いときよりも良くなりそう。。今日はまあまあでしたけど。

市川さん

まあまあって言っちゃいましたけど。(笑)

ベーやん

まあまあだったのぉ？

きんちゃん

たぶん本番はベストですから。

ベーやん

ベストでやんなきゃ、ダメだよお。

市川さん

ダメ出しされてますけど。。。

ベーやん

常にベストですからね、僕らは。

市川さん

谷村さんはどうでした？今日やってみて。

ちんぺい

やってみてねえ。やっぱり今、堀内も矢沢も言いましたけど、本番になった瞬間に人格も含めて別のどこにいったらいいんですね。

それでまた弦、切ってしまいました。

もう2本も切れてるんで、ライブ編成用と思われる方は。。。

ベーやん

それじゃ、三味線みたいになっちゃうから。

ちんぺい

弦って切ろうと思って切れるもんじゃないんですけど。

なんだけど、みなさんと向かい合うとなんか力はいって。。。それでこんな感じになってしまいましたけど。

これも含めてアリスらしいんだなって。

ベーやん

アリスらしいし、ちんぺいさんらしいですよ。

常に全力だからねえ。。。脇にいるうちらは大変ですよお。

市川さん

あなたも相当突っ走ってらっしゃいましたよ。(笑)

ベーやん

いえいえ、突っ走りますけどお、ほんとに半端なくきますでしょ。

市川さん

今日、初めて見てて気づいたんですけど、リハと本番を比べると。。。笑顔が出ます

よね、本番の方が。

お三人ともやりながら、いつのまにか笑みを浮かべてるっていう。

ちんぺい

不気味ですか？ (笑)

市川さん

すごい殺気がかってるっていうか。(笑) やっぱり、笑っちゃうほどなんか。。。

ベーやん

気持ちいい。

ちんぺい

やっててサウンドが出ている瞬間に、やっぱり嬉しいんですね。

ベーやん

そうですねえ。お互いまだ。。。僕は僕で後ろにいますけど、二人見ててその一瞬。やっぱり没頭しているじゃないですか。そういう風に見ると、「おっ、やったね」って。。。自分もいるんだけど、客観的に見て嬉しいですね。

市川さん

矢沢さん、どうですか？

やっぱり、そんな感じですか？

きんちゃん

もう、仰るとおりですね。

市川さん

振るんじゃないかった。



ベーやん

コメントはほんとに短いんですよ。(笑)
楽屋で喋ってるときは永遠に喋っているんですけど。

一番おもしろいんですよ。

こんなもんですよ。

自分たちの届けたい音色なら どの世代にも楽しんでもらえる

市川さん

で、もちろんその当時アリスを好きだった方たち、同世代の方とか、50代の方とかにも、その言葉は届くと思うんですが、逆に今までアリスのことを知らなかった若い世代、それこそ20代のバンド少年だったりとか、J-POPしか聴かない子だったりとか、という人たちが、いわゆる今までのファンの方たちの子供たちの世代というんですか。。。なんかそういう人たちに実はアリスがものすごく響くんじゃないかという期待を、私は今回持っているんですけど

ベーやん

響いてくれると嬉しいですよ。

ちんぺい

今、市川さんが仰ったように、J-POPって。。。僕らもJ-POPじゃないですか。。。

市川さん

あっ、そうですね。

ベーやん

カッコいいなあ、そういう風に言ってもらえると。

ちんぺい

呼び名はどんどん変わっていくんですけど、やっている人にとっては、わりとその呼び名はどうでもいいことが多い

んですよ。

自分たちの届けたい音色をしっかりと届けて、何か感じてくれたら、年齢とか性別も。。。まったく僕は関係なく楽しんでもらえると思っているんですけどね。

市川さん

実際、今の時代に人力のアナログサウンドで、実はすごいいろんなことをやっているように見えて、すごいシンプルでわかりやすい。。。楽曲だったり、アカペラで十分歌えるメロディだったり。。。なによりも最近はテレビの歌番組見ても歌詞がテロップで出ないと何を歌っているかわからないっていう方が多いんですが。。。

ここのアリスに関しては歌詞カード、テロップなくても歌っている言葉が伝わってくるっていう。。。これだけでも、ものすごい新鮮なんじゃないかっていう感じがするんですけど。

ベーやん

そう言ってもらえると、うれしいですね。

ちんぺい

あと、ギターを手にして初めて弾くっていう人たちにとって、アリスは一番弾きやすいんですよ。

ちんぺい

難しいコードを使わない。3つ覚えれば弾けるとか、4つ覚えれば弾けるとか、そういう音楽が多いんで、みんな入門としてアリスを通り過ぎていった人たちがけっこう多いんじゃないかと。

市川さん

フォークギターをちょっとでもかじろうと思えば、たいていみんな、最初にアリスをカバーするんですね。

ベーやん

簡素でほんとにもううまく。。。かたまりですよ。

市川さん

これから行く先々の方に何かメッセージがあれば。。。。



市川さん

ですから、お二人ボーカルと、それからドラムを叩き潰すタンバの男。

これを見てるだけでなんか。。。「あ〜なんか、帰ってきた帰ってきた」っていう感じもすごくして。

そういう意味では今回の今日の記者会見、ALICEリターンズっていう名称になっていますけど、まさにリターンズという。

しかも、これから怒涛に。。。これから夏、秋と届けに、各都道府県に向かわれると。まさに突っ走って、今日は話を聞かせていただいて、よかったなあと。

ちんぺい

ありがとうございます。

ベーやん

会いにきていただきたいですね。たくさんの方に。

今の自分たちのベストでやる 必ず楽しませるから待ってて

市川さん

これから行く先々の方に何かメッセージがあれば。。。。



ちんぺい

(きんちゃんに向かって) 先に言った方がいいよ。

きんちゃん

必ず。。。たぶん。。。じゃない。

必ず楽しませるんで、待っていてください。

市川さん

すばらしい。。。。

ベーやん

短いなあ。。。。

ねっ、まとめますでしょ。

市川さん

じゃあ、堀内さん。

ちんぺい

短く。(笑)

市川さん

短く。(笑)

ベーやん

そうですねえ、やっぱりあのお。。。。(笑)

もうあっという間でしたね、60になるのは。

何度もその間で「もう一度やってみよう」「もう一回ぐらいやってみようかな」という機会を伺えたんですけど。

で、ひとつ前のツアーっていうのは8個ぐらいしかやってないんじゃないかな。さっと引き上げたんで、なんか不完全燃焼じゃないけど、やっぱりこう。。。陸路じゃないでしょうけど、いろんな所に行って、いろんな人に会いたいなあっていうのが今回できるんで。

しかも、何度も申しますけど、僕はここで60を迎えるので、バンドも3人いるんですけど、この二人には申し訳ないんですけど、失礼ない言い方になるかもしれないんですけど、僕は今回は自分のためにやりたいのですよ。

それで必死こいている60の自分を、も

うほんとに赤裸々に等身大で見てもらって、「あ〜、60になってまだがんばれるし、魂はほんとに生き続けるのだなあ」というのをお互い感じあえる。

だから音楽的にどうのこうのっていうのはもういいじゃんっていうので、ただみんなと一緒に楽しめるコンサートになったら、きっとみんながもっと楽しいんじゃないかと。

ちょっと話。。。長くなったかなあ。

市川さん

いやいや、コンパクトでよかったです。

ベーやん

そうですか？

まだ、倍ぐらい喋れるけど。。。 (笑)

失礼いたしました。

市川さん

いえいえいえ。。。 (笑)

じゃあ、谷村さん。

ちんぺい

こうやって60歳になって3人のアリスが集まれるっていう、それぞれ堀内は

堀内のスタッフがいまして、矢沢の方も、僕の方もいるんですけど、そのスタッフ達がみんな、今年夏からほんとにアリスを思う存分やらしてあげようって言って、いろんなセッティングをしてくれた、そういう人達に支えられて、やっと実現できたことがいっぱいあります。

そんな、みんなのおかげでアリスが動き出せるっていう感謝の気持ちを忘れないようにしながら、堀内も矢沢も、ほんとに自分たちは今できるベストで、みなさんが待っている町へ出向いていきます。是非「おかえり」って叫びにきてください。

市川さん

え〜、笑顔でアリスが町にやってくるってということで、この公演は楽しみにしてくれればとみなさんにお伝えいただけたらと思っています。

じゃ、このへんで。。。。

アリス

ありがとうございました。



ステージを降りた3人は 大勢の報道陣に囲まれて

トークショーが終わり、ステージを降りた3人を報道陣が取り囲んだ。

しばらく写真撮影が行われた後、インタビューが始まった。

女性インタビュアー

渾身の一曲だったようですが、いかがでしたか？

きんちゃん

必死でしたね。

ベーやん

わはははは。

やっぱり、みなさんが見ていらっしゃるっていうので、いつもの倍近く出ますね。リハーサルはもう散々だったのですよ。

女性インタビュアー

散々といいますと？

ベーやん

このまま本番に突入したらどうなるのだろうと思っていたんですけど。。

なんかこう身体が覚えているのですよね。不思議だなあと思ってね。

女性インタビュアー

渾身といえば、弦が2本切れたのですって？

ちんぺい

はい、すみません。

あの～、ライブで必ず弦を切るのですよ、僕。それであの～、アマチュアの子らに。。アリスのコピーをしてくれているバンドの子に手紙をもらって、「どうやったら弦を切ることができますか？

ベーやん

そんなマネはいらんで。

ちんぺい

やすりでも切れないんですけど、イチやうと。。やっちゃん。

女性インタビュアー

(うれしそうに)イチやうとやっちゃん。

ちんぺい

それで今日、イチちゃいましたから、やっちゃいました。

それぐらいテンション。。あがってたんでしょね。

女性インタビュアー

私達にしては豪華なステージだったんですけど。。

報道陣のためのステージでしたから。

ちんぺい

それであの。。見てくださっているカメラを通して、待ってくださってる人に届いてくれればいいと思って。

アリスが語る「タンバ」の秘密 簡単に見えるのは凄い事なんだ

女性インタビュアー

矢沢さんはどうでしたか？

きんちゃん

あの～、大変疲れしました。(笑)

ほんと、この楽器は現役の時でも疲れるんですよ。





あの～、すごく。。

ですから、久しぶりに、2001年の時
か。。

ちんぺい

そうだね。久しぶりだからね。

きんちゃん

それで、これ。。練習がすごくつまらな
いんですね、一人でやると。(笑)

練習できないんで、いつも本番で。。

ちんぺい

ホールトーンで唸らせるんで、部屋でや
ってると単にパタパタパタパタいって
るだけなんです。

だからこれはドゥ～ンと唸る場所じゃ
ないと練習にならないんです。

女性インタビューー

すみません。。

ほんとと申し訳ないんですけど、簡単そう
に見えるんですけど、そうじゃないんで
すね。

きんちゃん

あっ。。

ベーやん

あ～。

きんちゃん

やってみます？

女性インタビューー

いやいやいやいや。(笑)

ベーやん

楽器はやさしいのはひとつもないです
ね。

まあ、なんでもそうですけど。

きんちゃん

やさしく見えるってことはスゴイこと
なんだよ。

ちんぺい

何を言ってんだよ(笑)。自分で言ってる。
スゴイんですよ。すごい疲れる。

女性インタビューー

そういうことなんですか。。だから疲れ
たと。

ベーやん

けっこう神経使うんですよ。

28年前と同じ雪の夜 3人で食べた薬膳料理

女性インタビューー

でも、3人で、今日は。。やっぱり久し
ぶりなんですか？

ちんぺい

昨日ね。今日に向けて、飯食ってたんで
すよ。

ベーやん

あれは何料理ですか？

ちんぺい

あのねえ薬膳。。もう、このへんが60
でしょ。

普通、焼肉とか行くけど、薬膳鍋なんで
すよ。

女性インタビューー

身体にいい。

ベーやん

店全体がすんごい薬っぽい。(笑)

ちんぺい

モンゴル鍋。

ベーやん

あっ、モンゴル系なんですか、あれは。

ちんぺい

そこで「明日、頑張ろうね」って言いなが
ら、薬膳の鍋をつついてる。。

合計180歳。(笑)

ベーやん

ちょうど雪降ってましたね。

女性インタビューー

でも、日にちはちょうど良かったじゃな
いですか。雪の中で、氣勢っていうか、
心をひとつにして。

ちんぺい

そうですね。

アリスのさよならを後楽園でしたとき
も、前日大雪が降ったんです。

それであくる日、すごい寒かったんです。

ベーやん

ん～、あの時は寒かった。

ちんぺい

それで昨日の夜も実は雪降ってて、「あ
～、あの時と一緒にだね」って言いなが
ら。。薬膳食べてました。

女性インタビューー

その力が今日、出たんですか。

ベーやん

出ましたよお～。。役立ちましたね。(笑)

ちんぺい

はははははっ

女性インタビューー

先程ね、再結成っていう言葉は使わない
でほしいってことだったんですけど、ど
ういう風に理解すればいいんですか？

ちんぺい

え～、まだ動き出した。

ベーやん

うん、再始動ですよ。

ちんぺい

まっ、なんでもいいです。

リターンズっていうのが一番わかりや
すいかな。

ベーやん

また帰ってこれたっていうか。。

ちんぺい

帰ってきたっていうか。。

若いアーティスト達はやらない でも、俺達の頃は普通の公演数

女性インタビューー

今回はかなりハードじゃないですか。

だって、これ見ましたらね。すごいです。

9月なんかは16回あるんですよ。

山梨から大宮、さいたま、東京、名古屋、金沢、島根。。。すごいですよ。

ちんぺい

たぶん、現役の若いアーティストも全国こんなツアー。。。たぶん、しないですよ。僕らの頃は普通だったんです。

ベーやん

そうです、僕は普通にね。

女性インタビュアー

でも、心配するのはやっぱり体力。。。。

ベーやん

あっ、そこを言われたら。

ちんぺい

そこをつかれるとね。

でも、出してしまったら、引き下がれないぐらい追い込んでいくと、また。。。イッチャいますよ。

女性インタビュアー

例えば、今から何か体力づくりしようとか、みなさんでここだけは気をつけようとか、健康は。。。。

そういう話はないんですか？

ちんぺい

とりあえず、今は花粉症。。。 (笑)

ベーやん

今日なんかカメラでたくさん写してもらってあれなんだけど、なんかどっか腫れぼったいんですよ。

女性インタビュアー

もっと普段はいい顔で。。。 (笑)

ベーやん

3日ぐらい前からできてたんですよ

女性インタビュアー

花粉症。。。突然やってくるんですよ。

ベーやん

突然やってくるんですよ、あいつは。 (笑)

60歳という節目のツアー さらに70歳のアリスでは？

女性インタビュアー

でも、みなさんが待ってくださっている中での今回ですから、この時期についてのは、改めてこの時期っていうのは、意味合いというのは大きいと思うんですよ。

ちんぺい

そうですね。60歳という節目でもありますし、その60歳になる前に3人でアルバム作りに集まれたっていう。そう

いう。。。時間がなくて集約してたってこともあると思うんです。だから、これがねえ、60。。。今度、70っていうと、ちょっと「あの人、元気だったのにねえ」みたいなこともあるんで、今がギリギリかなあみたいなのが3人とも、同じことを考えていたんだと思います。

ベーやん

今ならまだ約束をはたせるなあって。

70ってのは、まだ未知の世界ですけど、その時もまた元気でいられたらいいんですけどねえ。

女性インタビュアー

その時のアリスも見てみたい。。。。

ベーやん

もう、その時はみんな完璧に椅子に座ってますよ。 (笑)

ちんぺい

2時間とか、ずっと立っているのって、なかなかね。 (笑)

ベーやん

辛いですがもんね。 (笑)

ちんぺい

ベッドとかね。 (笑)

ぼくらは70になるけど、みなさんもあがるわけですから。

ベーやん

すごいよね。

ちんぺい

これ、すごいね。実現したらね。

男性記者

でも、70歳って言いますと加山さんがいらっしやいますが。

ちんぺい

もうねえ、加山さんは。。。。





ベーやん

あの人、がんばるねえ。

ちんぺい

加山さんがいてくれるから、僕らはまだまだだなんて思えるんで。

加山さんがなんか調子悪いなって言われると、僕らの世代は突然「へえっ」って。。

ベーやん

へこむよね。

ちんぺい

加山さんのおかげ。。

かまやつさんね。

ベーやん

ムッシュね。あの世代。。僕ら拝んでますね。(笑)

ちんぺい

元気でいてくださいって。

女性インタビュアー

でも、他の人に比べればって変な話ですけども。。みなさん、若いし、体力あるし、エネルギーあるし。

ベーやん

何を言ってるんですか、あなた。(笑)

若そうに見えるのと若作りとは違いますからね。(笑)

内容は本当に。。あははは。。えへへのは、みたいな。

それは自分で感じますよ。

それをこういとおしみながら今度はコンサートに向けるんですよ。

これがいいんですよ。

老いと戦いですよ。

女性インタビュアー

でも、みなさん。。楽しみにされてると思うんですよ。こればかりは。。

ちんぺい

いや、僕らも楽しみですよ。

どんなツアーになるかもちょっと想像

つかないんだけど、今日は誰が注射うったみたいな事も絶対あるだろうし。(笑)

でも、それも含めて。。まんま、やっちゃおうと。

それも含めて見てもらおうとね。

それで、同世代の人が「あの頃、あんなにバリバリやってたアリスがやってるんだな」ってことで、なんか元気になってくれれば。

この得体の知れない閉塞感をぶっとばせるんじゃないかと。

気になるライブでの演奏曲数 新曲は「ツアーで盛り上がれば」

男性記者

ワンステージ何曲ぐらいやられるんですか？

ちんぺい

まだ決めてません。

けっこうガンガン。。

ベーやん

けっこうやると思いますよ。

ちんぺい

1曲とかってことはないですから。(笑)

ベーやん

あっさりしてますよねえ、それだと。(笑)

男性記者

新曲もはいるんですか？

ちんぺい

新曲は今のところはまだ考えてないんですけど、ツアーしてる途中で盛り上がってきたら作っちゃうかもわかりません。

女性インタビュアー

どういったステージにと考えてらっしゃいますか？

ちんぺい

もう、何もなしステージとかねえ。

ベーやん

昔とはもう違いますから、それぞれの経験値で。。少なくとも30何年やってますから。

それが自然に出せて、その裏側に真剣さがいつも。。いつもまっすぐで、あんまり変わってないんですけど。

きんちゃん

それがお客さんによって、つかんでもらえたら。。一緒に楽しめるなあって。

そういうツアーになればね。

女性インタビュアー

3人揃うから「アリス」なんですよ。

ベーやん

そうやなあ、ほんとによく。。きんちゃんも俺も。。

きんちゃん

生きてた。(笑)

ベーやん

哀愁の彼方にね。(笑)

ちんぺい

でも、一人欠けたら「アリ」ですからねえ。(笑)

ベーやん

えっ、「ス」は。。

「ス」がどっか行っちゃった。(笑)

ちんぺい

これ。。3人揃って「アリス」。

3人揃ってしか出せないものが、やっぱり「アリス」。

それを感じてもらいたい。

それぞれいろんな経験を積んで
これからほんとに楽しんでやる

女性インタビュアー

じゃあ、お客様に。。ちょっとずつ、みなさんのメッセージをお願いします。

ベーやん

おかげさまで、ほんとに60を迎えるまで、みなさんに支えられて。。迎えたことをほんとに喜びを感じています。
やっぱり今回のステージは、みんながどうとらえるかわかりませんけど。。僕は自分のために、この60という区切りを、なんか決着をつけたっていう思いで、二人も一緒にやるんですけど。
ほんとにこれを越えたら、また違う世界が待っているんじゃないかなと思うんですよ。

必死でがんばります。

女性インタビュアー

ツアーの途中で誕生日を迎えるんですよね。

ベーやん

はい、10月の27日なんです。

プレゼント、よろしくお願いします。(笑)

ちんぺい

10月に堀内が60になって、3人で180になって。。それもすごく楽しみです。それぞれいろんな経験を積んできて、辛いことも悲しいことも、いろんなことがあって。。でも今、これからほんとにいい意味で楽しいね、そんなタイミングがきたと。

だから、何のポーズもいらないし、もう直球を。投げられる直球をそのまま投げる。そんなステージがあって、みんなで一緒に楽しむなり、受け止めるなり、自分の好きな楽しみ方をしてもらえればと思います。

女性インタビュアー

矢沢さん、締めていただけますか？

きんちゃん

締めるんですか？(笑)

ちんぺい

短く？(笑)

きんちゃん

そうですね。

やっぱり恩返しっていうこともけっこうすごく重要なことで、実はスタッフだとか感謝する人はいっぱいいますけど、基本的に一番恩返ししなくちゃいけないのは、やっぱりファンなのかなっていうのが。

その想いが少しでも伝わって、またお互い意識をもてれば、うれしいなって。

3人揃って還暦のステージ 気になる衣装は真っ赤？

女性インタビュアー

3人揃って還暦のステージになりますか？
が。。衣装はどうしましょう。

ちんぺい

衣装ですか。。。(笑)

3人真っ赤っていうのはちょっと痛いから。(笑)

どっかに赤は使うと思うんですけど。

女性インタビュアー

そこを意識して。

ちんぺい

それも楽しみにしてもらえると。。

スタッフ

では、そろそろお時間なので。

ベーやん

はい。

女性インタビュアー

どうぞ、身体に気をつけて。

アリス

どうも、ありがとうございました。





アリスの飛行船 再始動記念会報「ALICE RETURNS」 企画・制作:アリスの飛行船
2009 年 8 月 21 日 PDF 版発行

